

新国立競技場のシステム等関連整備の検討に当たっての基本的考え方

平成28年8月23日

独立行政法人日本スポーツ振興センター

新国立競技場の建設に際し、新国立競技場のシステム等関連整備の検討に当たっては、専門家の助言をいただきながら、以下を基本的考え方として具体的な検討を進めていくこととする。

- (1) 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会のメインスタジアムとなる新国立競技場について、競技者が最高の力を発揮し、観客と一体感のある空間を作り出すために適切なシステム等を整備する。
- (2) 世界最高のユニバーサルデザインを備えたスタジアムにふさわしいシステム等を整備する。
- (3) 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会後の運営を視野に入れ、施設の将来可変性に配慮したシステム等を整備する。
- (4) 安心・安全なスタジアムとして、災害時の避難及び救援等に寄与するシステム等を整備する。
- (5) システム等の整備に当たっては、できる限りコストを抑制し、維持管理等を最大限考慮するものとする。
- (6) 専門家の助言をいただき、決定のプロセスを透明化する。

以上、上記の基本的な考え方を総合的に検討し決定する。